ELECTRIC SCOOTER

OWNERS MANUAL

取扱説明書

金龍

EM67 series

EM67-1000

EM67-1000L

Yadea Japan

はじめに

この度は Yadea Electric Scooter（Escooter）をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しい取扱いをご理解頂くために Escooter を操作する前に必ず本書をお読みください。
まずはバッテリーを満充電になるまで充電してください。充電をしながらこの取扱説明書を最後までお読みください。
この取扱説明書にはお客様の安全に関わる重要な情報が記載されています。
取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますのでお気をつけください。
Escooter を使用するのには免許が必要です。交通規則を順守しましょう。
バッテリーボックス表面の金属部分は⊕極と⊖極を有する電極のため、濡れた手や金属類で触れるのは非常に危険であり、ショートや事故の発生原因となります。
ご自身でのパーツ分解や修理などは行わないでください。修理が必要な際にはヤディア販売店へご相談ください。
この Escooter は水面下走行はできません。後輪の電子機器付近が浸水した場合はショートが起きたり電子機器の損傷が発生する可能性がありますのでお気を付けください。
リチウムイオンバッテリーは稀に初期不良を起こす場合があります。走行中いきなり停止してしまうケースもあり非常に危険です。走行距離 100㎞までは充分に気をつけて走行して下さい。不具合等が発見された場合には直ちに走行をやめてヤディア販売店までご連絡ください。

⚠ 警告	このマニュアルには、Escooter の点検を怠った場合に生じてしまう問題に関する多数の⚠警告印が記載されています。⚠警告印の指示に従わなかった場合には Escooter の制御不能から生じる怪我や事故が発生する可能性があります。転倒事故は怪我や死亡につながることが多いため、十分にお気を付け下さい。
⚠ 注意	⚠注意印は、マニュアルの指示に従わなかった場合には Escooter や部品が損傷してしまうことを記述しています。

⚠ 警告
Escooter は以下のような場合には使用してはいけません。
1. 歩道や歩行者専用道路
2. でこぼこ、あるいは舗装されていない道路
3. 暗所での無灯
4. 砂だらけ、あるいは砂利だらけの道
5. 体重 150kg以上の人
6. 股下の長さが 55㎝以下の人
7. 身体あるいは知的障害を抱えた人
8. 視覚、バランス、聴覚、運動協調性障害を抱えた人
9. ヘッドフォンあるいは携帯電話を使用中の人（交通音や緊急車両のサイレンなどが覆われてしまったり、これらの製品のコードなどが Escooter の可動部分に絡まってしまうことがあるため）
10. シート下トランクに 4kg以上の物を積載すること
11. サンダル、ヒール、つま先の開いた靴、着脱用意な履物の人
12. アルコール、または運転手の Escooter 運転能力に影響してしまう薬物を摂取した人
13. ハンドルを両手で持っていない場合
14. シートに座っていない場合
15. 斜面などのジャンプ、スタントを行う場合
16. 地形や状況に合っていない速度や運転方法、駆動部分に近接近した衣服などを着ている場合
17. 自身の能力や経験を超えている場合
18. フロントブレーキのみだけで停車する場合（停車の際には両ブレーキの使用を推奨します）

INDEX

1. 安全にお乗りいただくために必ずお読みください …… 1
2. 取扱い方法 …… 3
3. 正しい運転操作方法 …… 7
4. お車のお手入れ …… 9
5. 日常点検・定期点検 …… 10
6. 困ったときは …… 16
7. サービスデータ …… 17

Escooter は European Motor Vehicle Safety Regulation Act 2002/24/EC を厳守しています。
仕様変更等によりこの取扱説明書の内容と車両が一致しない場合があります。予め御了承下さい。
Yadea 社および Yadea Japan、Yadea Escooter 販売店は、使用者が法令に従わなかった場合に生じた問題については一切の責を負わないものとする。

1 安全にお乗りいただくために必ずお読みください

■ 運転前

必ず法定速度を守りましょう。
車両に慣れるまで安全で広い場所にて十分に基礎練習を行ってください。
この車両は、乗車目的以外に使用しないでください。
Escooter を使用する際はスロットルが OFF になっていることを確認してください。メインスイッチを ON にした際いきなり発進することのないよう注意してください。
アルコール類・薬物を使用しての乗車、片手ばなしや両手ばなし等の危険走行は非常に危険ですので絶対におやめください。
Escooter を安全に停止させるために手がブレーキレバーを容易に握れることを確認してください。
運転の際にはツールキットを携帯しましょう。（チューブレスタイヤ専用修理キットなど）
注意事項を順守し、安全運転をこころがけてください。
重要な事項を書いたシールが車両に貼られています。これらの注意事項をいつもお守りください。

●取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
●ヘルメットを正しくかぶりましょう。
●モーターは熱くなります。走行後は人が触れないようご注意願います。
●ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
●メインキーの切り忘れに注意しましょう。
●安全運転・迷惑防止のため違法改造をやめましょう。
●荷物の積載重量を守り積載物の固定を確認しましょう。

■正しい服装で乗車しましょう

- ヘルメットを正しく着用しましょう。正しくかぶらないと事故の際重大な傷害を負う可能性が高くなります。
- 頭にあったサイズの S、SG または JIS マークのある二輪車用ヘルメットをかぶり、ベルトをしっかりしめましょう。
- ヘルメットシールドまたは視覚に影響しないなゴーグルを使用しましょう。
- 保護衣類やグローブを着用しましょう。摩擦に強い製品が適しています。
- 服装は目立つ明るい色を選び、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用しましょう。万一の際に身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。広い袖口や広い裾などは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはきましょう。
- 二人乗車可能な車両の場合、後ろの席に乗車する人は、テールランプやターンシグナルランプを覆い隠さないよう上衣のすそに十分気をつけてください。

■点検整備をしましょう。

- 事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
- 異音や異臭がした場合などは、ヤディア販売店で点検を受けて下さい。

■乗車定員

1000W モーター 原付二種
2 名*

＊運転者が 2 輪免許を取得して 1 年を経過していない場合は、2 名乗車ができません。

■荷物

- 荷物を積むと、積まない時にくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定してください。
- 荷物の積載は下表重量までです。積み過ぎないよう注意して下さい。
- 荷物は下表項目以外の場所には積まないでください。
- フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするような大きな荷物は掛けないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- フロントラックから荷物がはみ出さないよう注意してください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

フロントインナーボックス	フロントフック	シート下スペース	リアキャリア（ボックス含む）
3kg 以下	1.2kg 以下	3kg 以下	3kg 以下

■ 運転中

■ 乗り方
- 運転中は両手でハンドルを握り、足をステップボードに置いて下さい。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。

■ 風が強い日の運転には十分に気をつけてください
- 横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車体が流されることがあります。スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

■ 雨天時や降雪時の運転には十分に気をつけてください
- 雨天時や降雪時は路面が滑るのでとても危険です。急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ターンの際やスピードの出し過ぎに注意をしましょう。
- 雨や雪の際は路面がぬれている為ブレーキが効きにくくなります。早め早めのブレーキングを心がけましょう。

⚠ 注意
- 蛇行運転や道路を共有している人が驚くような運転方法は行わないこと。
- Escooter 運転の際には、運転手の視覚に問題が生じるもの、Escooter の完全な制御力に影響するもの、または Escooter の可動部分に影響を与えるものは搭載しないこと。
- 走行している他車にしがみついて、けん引してもらわないこと。
- 常にフルスロットルで Escooter を走行することは、走行距離やバッテリー寿命の短縮の原因となります。徐々に走行を開始し、勢いがついたら 1 /4 ほど減速することを推奨します。

■ 駐車する時
- 車から離れるときは、必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。
- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車は絶対にやめましょう。
- 車は平らな場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けて下さい。
- やむを得ず傾斜地、砂利道、でこぼこな場所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり動いてしまわないよう十分に注意して下さい。
- モーター回転中および停止後しばらくの間は、モーターが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負う恐れがあります。人が触れないよう注意して下さい。

■ ご使用後
- メインスイッチが OFF の状態になっているかを確認し、キーを安全な場所に保管しましょう。
- バッテリーを充電すること。バッテリーは完全に放電しないようにご使用後は毎回充電をしましょう。
- スロットルが OFF になっているかを確認しましょう。
- 野外、または過度の湿気が Escooter に損傷を与えてしまうような場所に保管しないこと。
- Escooter を火元（かまど、暖炉、ヒーター）などの 6 m以内で保管または充電しないこと。
- 16 歳以下の児童に、近くに操作員がいない Escooter のそばで遊ばせないこと。

⚠ 警告
- これらの指示に従わなかった場合には重度な怪我、死亡、ショート、または火災が発生することがあります。

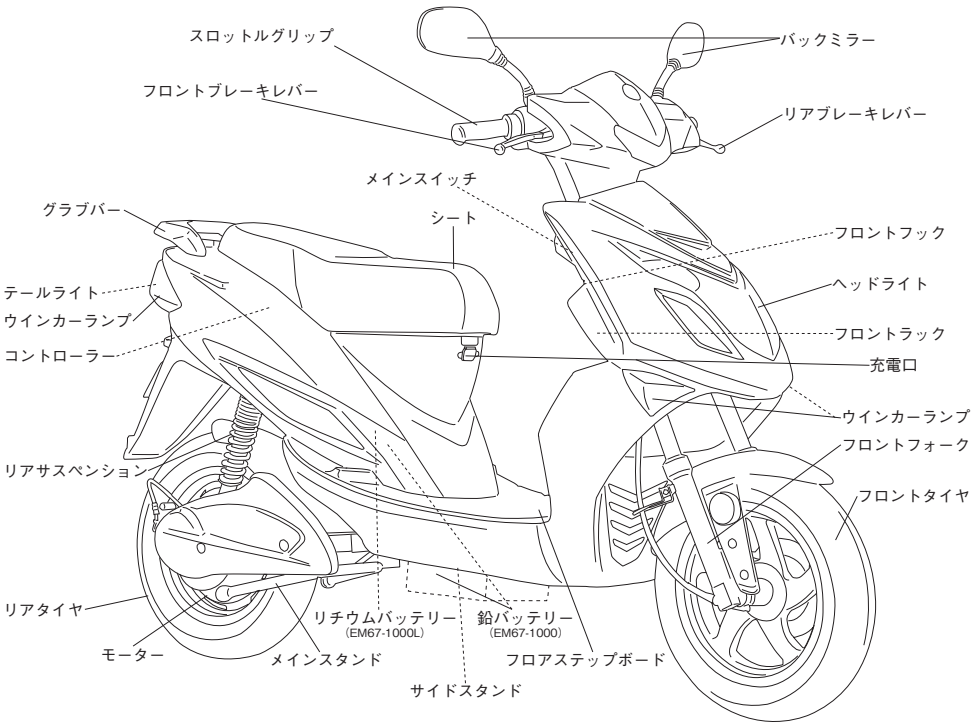
■ 整備について

■ 安全運転・迷惑防止のため違法改造をやめましょう
- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、車の寿命を縮めることになります。
- このような改造は法律にふれるばかりではなく、他の人の迷惑となります。
- 車の改造は保証の適用を除外されますので予めご了承ください。
- 自己流のモーター調整、部品の取外しは行わないでください。

⚠ 警告
- Yadea 社から認可を受けていないもの、マニュアルに記載されていないもの、または法律によって定められていないパーツを追加しないこと。
- 反射物、照明器具、その他の標準装備物を取り除かないこと。これらに従わなかった場合には保証適応外になる可能性があります。認可されているパーツはヤディア販売店にお問合わせください。

2 取扱い方法

■ 各部の名称



---------- は見えない箇所を表しています。

■ メーターの見方

■ スピードメーター
車の走行速度をkm／hの単位で示します。
法定速度を守りましょう。

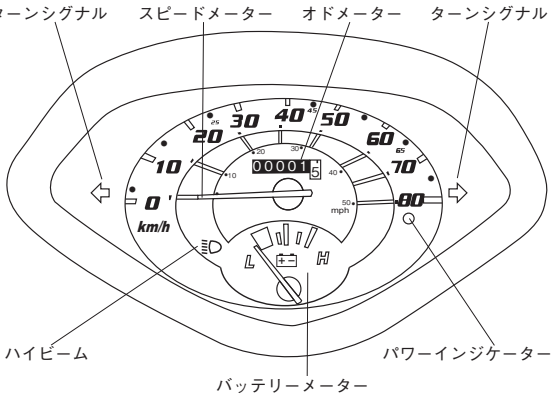
■ オドメーター
走行した総距離をkmの単位で示します。
定期点検などの目安になります。

■ バッテリーメーター
バッテリー内の充電残量の目安を示します。

■ ターンシグナル
ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビーム
ハイビームにすると点灯します。

■ パワーインジケーター
メインブレーカー・メインスイッチが ON で点灯します。



■ 充電の仕方

鉛バッテリー　EM67-1000

1. 充電器 Intelligent Battery Charger を用意する
AC100V 電源コードを家庭用コンセントにつなぐ。Power および Charge ランプが点灯します。

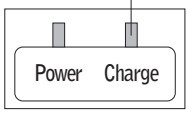
2. 車両につなぐ
車両のメインスイッチが OFF であることを確認し、パワーインプットコード（右図参照）を車両のシート下にある充電口に差し込む。

パワーインプットコード

3. 充電スタート
充電を行っている最中は Charge ランプが赤色に点灯します。

4. 充電完了
満充電になると Charge ランプが緑色に点灯します。
家庭用コンセントを抜いてからパワーインプットコードを外します。

赤色‥充電中
緑色‥充電完了



■ご使用後は毎回充電をしましょう
通常の継ぎ足し充電時間は 6 ～ 8 時間が目安です。

⚠ 警告
16 時間以上の充電は避けてください。バッテリーや充電器がオーバーヒートし、火災の原因となる場合があります。重要な事項を書いたシールが充電器本体に貼られています。これらの注意事項をいつもお守りください。あわせて充電器に付属されている使用説明書もお読みください。充電器は、バッテリーの損傷を避けるために付属品のもの、もしくはヤディア販売店に推奨されたもののみを使用するしてください。

リチウムイオンバッテリー　EM67-1000L

1. 充電器 LI-ION BATTERY CHARGER を用意する
AC100V 電源コード（右図参照）を充電器本体に確実に差し込み、家庭用コンセントにつなぐ。

電源コード

2. 車両につなぐ
車両のメインスイッチが OFF であることを確認し、パワーインプットコード（右図参照）を車両のシート下にある充電口に差し込む。

パワーインプットコード

3. 充電器の電源を ON にする
充電器本体側面にある電源スイッチを ON にします。反対側の側面にある LED ランプの赤色が点灯します。
充電を行っている最中は充電器の表示灯 LED が黄色に点灯します。

○側 OFF/ ー側 ON

4. 充電完了
満充電になると表示灯 LED が緑色に点灯します。充電器の電源スイッチを OFF にし、車両および家庭用コンセントから充電器を外します。

電源灯 LED	表示灯 LED	
☼ 赤色点灯	☼ 黄色点灯	☼ 緑色点灯
電源 ON	充電中	充電完了

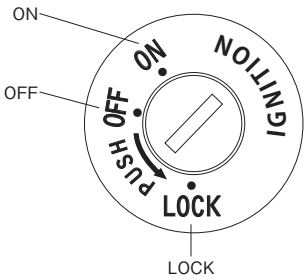
■ご使用後は毎回充電をしましょう
通常の継ぎ足し充電時間は 3 ～ 6 時間が目安です。

⚠ 警告
10 時間以上の充電は避けてください。バッテリーや充電器がオーバーヒートし、火災の原因となる場合があります。メーターのバッテリー残高がゼロになる前に必ずバッテリーを充電してください。バッテリーのフル放電はバッテリー寿命を短縮、バッテリーを損傷、または充電時のバッテリーと充電器のオーバーヒートや火災原因につながる場合もあります。充電器は、バッテリーの損傷を避けるために付属品の 115/230VAC もしくはヤディア販売店に推奨されたもののみを使用すること。充電開始時に表示灯が緑から黄に変わらない場合、一度充電器の配線を抜いて、再度差し込んでみて下さい。

■ スイッチの使い方

■ メインキー
車両にはメインキーが２個セットされています。

⚠ 注意
- １個はスペアキーとして大切に保管して下さい。



■ メインスイッチ
電気回路の ON、OFF および LOCK をキーを回して行います。

ON
- モーターの始動、走行ができます。
- メーターランプ、ヘッドランプ、テールランプが点灯します。
- スイッチ、ランプ類が使えます。（ターンシグナル、ホーン、ディマ）
- キーは抜けません。

OFF
- モーターが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーは抜けます。
- 乗車していない時は OFF にし、電池の消耗を避けましょう。

LOCK
- ハンドルがロックします。
- ランプ類は使えません。
- キーは抜けます。

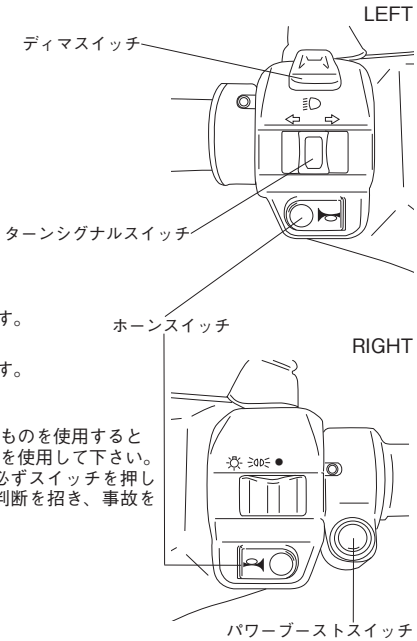
⚠ 警告
- 走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後操作して下さい。
- メインスイッチ ON でメーターランプが点灯するため、そのままにしておくとモーターが過熱しバッテリーあがりの原因となります。
- 車から離れるときは、盗難防止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。

■ ディマスイッチ
ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム
- スイッチを奥側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム
- スイッチを手前側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

⚠ 注意
- 対向車や先行車がある時はロービームで走行して下さい。



■ ターンシグナルスイッチ
右折または左折するときや進路変更などの合図にも使います。

右折
- スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。

左折
- スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。
- スイッチを押してランプを消します。

⚠ 警告
- ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用して下さい。
- ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は必ずスイッチを押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲に誤った判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

■ ホーンスイッチ
- スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

■ パワーブーストスイッチ
- スイッチを押すと最高出力が向上します。再度押すと解除されます。

⚠ 警告
- ON のまま走行を続けるとモーターが過熱しバッテリー早期あがりの原因となります。解除を忘れずに行ってください。

■ ハンドルロック

車から離れるときは、盗難防止のためにハンドルロックをかけましょう。

■ かける

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら OFF から LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

⚠ 注意

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。

■ はずす

- キーを差し込み、押しながら OFF まで回します。

⚠ 注意

- 走行前にハンドルを左右に動かして、着れ角が左右均等かを確認してください。

■ シート下スペース

スペースの使用はシートを開けて行います。荷物の積載は右表をご覧ください。

シート下スペースの許容積載量
3kg

■ あける

- シート後部にある鍵穴にメインキーを差し込み右にまわすと開きます。

■ しめる

- シートを垂直に押下げてください。きちんとしまっているかをご確認ください。

⚠ 注意

- トランク内は熱や直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすいもの、食料品、可燃性のものは入れないでください。
- 壊れやすいものは入れないでください。
- 車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。
- 雨や洗車時などトランク内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

■ フロントインナーボックス

小物などを収納するラックを装備しています。荷物の積載は 3kg までです。

フロントインナーボックスの許容積載量
3kg

⚠ 警告

フロントラックから荷物をはみださないでください。ハンドル操作に支障をきたす恐れがあります。

■ フロントフック

買物袋などを掛ける事ができるフックを装備しています。荷物の積載は 1.2kgまでです。

フロントフックの許容積載量
1.2kg

⚠ 警告

フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするような大きな荷物は掛けないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

3 正しい運転操作方法

■ スタートする前に

- バッテリー残量を確認します。必要に応じて充電をして下さい。
- メインスタンドを立ててください。
- 車両の左側に立ってください。
- スロットルグリップが ON になっていないことを確認してください。ひっかかり等がありスロットルが自動的に初期位置に戻らないことがないかどうかも確認してください。

⚠ 警告

- メーターのバッテリー残高が LOW の場合は走行を避けること。充電をしてください。
- サイドスタンドが出ている状態でも、スタートしますので取扱いには十分に注意をしてください。
- 保安部品（ヘッドライト、ウインカーランプ、ブレーキランプ、ホーンなど）が故障した場合には、直ちに走行を中止してください。

■ 発進のしかた

1. メインスタンドを戻します

左手でリアブレーキレバーを握り、右手でリアキャリアを持ち、車を押してメインスタンドを戻します。

2. 乗車します

両手でハンドルを握り、車の左側から乗車しシートに腰をおろします。左足は地面につけて倒れないようにします。

⚠ 注意

飛び出し防止のため、必ずリアブレーキレバーを握ってください。

3. メインスイッチを ON にします

飛び出し防止のため、リアブレーキレバーを握った状態で、メインスイッチを ON にします。

4. 安全を確認します

発進の合図（右側ターンシグナルランプの点滅）をし、前後の安全を確認します。

⚠ 注意

近くに人がいる場合、交通量の多い道路、夜間などでの発進には十分注意してください。後方の車には特に注意しましょう。

5. 発進します

リアブレーキレバーを放してスロットルグリップを徐々に手前に回して加速します。車両のコントロールを保つため、加速する際はスロットルを少しずつ回してください。発進したら速やかにターンシグナルランプを消灯して下さい。

⚠ 警告

- スロットルグリップを急激に回すと、急発進して事故を起こす恐れがあります。
- 常にフルスロットルで走行することは走行距離、バッテリー寿命の短縮の原因となります。徐々に走行を開始し、初期加速の勢いがついたら 1/4 ほど減速することを推奨します。走行可能距離やバッテリー寿命が延びます。
- 法定速度を守って走りましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにヤディア販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

- DC ブラシレスモーターは起動の際に小さな電磁雑音を発生させます。これは故障ではありません。
- 曲がる際には方向指示器をつけます。曲がり終えたら必ず消すことを忘れないでください。

■ スロットルコントロール

スロットルグリップでスピードを調整します。

手前に回す	▪ スピードが速くなります。 ▪ ゆっくり回しましょう。
戻す	▪ スピードが遅くなります。 ▪ すばやく戻しましょう。

■ パワーブーストスイッチ

押す	▪ スピードが少し速くなります。
戻す	▪ スピードが元に戻ります。

■ ブレーキの使い方

- ブレーキは前後ともに使いましょう。
- スロットルグリップをすばやく戻してから、前輪と後輪のブレーキを同時にかけてください。
- 徐々にブレーキをかけスピードを落としていくのが上手なかけかたです。

⚠ 警告
- フロントブレーキまたはリアブレーキのみ使うと、車両が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。スピードを落として早めにブレーキをかけてください。
- 長い下り坂などでは、連続的なブレーキ操作は避けて下さい。ブレーキのききが悪くなる恐れがあります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

■ 止まり方

1. 合図を出します
- 早めにターンシグナルランプを点滅させ他の車に注意しながら、徐々に左に寄ります。
- スロットルグリップを戻して前後ブレーキをかけます。ストップランプが点灯し後車への合図にもなります。

2. メインスイッチを OFF にします
- 車が完全に止まったら、ターンシグナルランプを消し、キーを OFF にします。

3. スタンドを立てます
- 交通の邪魔にならない平らな場所でメインスタンドを立てます。
- 左手でハンドルをまっすぐにし、右手はリアキャリアを持ちます。
- メインスタンドの足かけに右足をかけて体重をのせ、リアキャリアを引き上げます。

⚠ 注意
- やわらかい路面や坂道などでは車が倒れない様注意してください。

4. ハンドルロックをします
- 車から離れるときは、盗難防止のためハンドルロックをかけてください。

⚠ 警告
- モーター回転中および停止後しばらくの間は、モーターが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負う恐れがあります。人が触れないよう十分に注意して下さい。
- 安全のために走行していないときはキーを外してください。
- 走行距離と速度は道路状況や運転手によって異なります。一定の速度で走行し、停車回数をより少なく抑えることによって走行距離は伸びます。天候、車両コンディション、充電状況も影響します。
- 運転手は荒い道路、悪天候、充電残高が低い状態で走行する際には最善の注意を図る必要があります。走行中には常に充電残高を確認し、残高が低くならないよう対処しましょう。

■ ならし運転
新しいタイヤをならすこととブレーキにあたりがつくまではご注意ください。
Escooter は正しくならされた場合、長期間使用でき、動作状態も良くなります。ブレーキ制御ケーブル、車軸ナットなどは新しい Escooter が初めて使用された場合に緩む可能性があり、調整が必要となります。ブレーキや車軸ナットなどは 30 日に一度は点検を行うことを推奨いたします。

4 お車のお手入れ

■洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃を心がけましょう。泥道や埃の多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。

1. 水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れを落とします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。

⚠ 注意

- 洗車はモーターが冷えているときに行ってください。
- 洗車時、電装品に水が入らないよう注意して下さい。水が入ると始動不良やサビの発生の原因となります。
- 洗車後はブレーキのききが悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。
- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部分を強く磨くと色むらが生じる場合があります。

■保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。

⚠ 注意

ボディカバーは、モーターが冷えてからかけてください。
長時間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- 保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- Escooter の長時間保管の際にはフル放電を避けるために最低 1 か月に 1 度はバッテリー充電を行うこと。
- Escooter を長期間保管する際にはメインブレーカーを切ることを推奨します。
- バッテリーは、自己放電と電気漏れを少なくするため、⊖ターミナルを外してください。
- 補充電は、ヤディア販売店にご相談ください。

■環境保護

将来、車両を廃棄する場合や使用済バッテリーなどを廃棄する場合は、むやみに捨てずにヤディア販売店（廃車二輪取扱店）にご相談ください。

5 日常点検・定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施して下さい。

日常点検

車を使用する人が、1 日 1 回運転の前に実施する点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次頁をご覧ください。

定期点検

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
ご自身では出来ない整備につきましてはヤディア販売店までご相談ください。

⚠ 警告

- 点検は、安全に十分注意して行って下さい。
- 平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立てて行いましょう。
- モーター回転中および停止後しばらくの間は、モーターが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負う恐れがあります。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。
- 走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意して下さい。
- 異常が認められたときは、ご自身またはヤディア販売店で確実に整備してからお乗りください。

⚠ 注意

- 日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。
- お車を使用しない時も定期点検は実施してください。お車を長時間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。

■ Electric Scooter（Escooter）

Escooter の運転システムは 4 つのパーツで構成されています。
バッテリー、コントローラー、スロットル、モーター
スロットルが回されている時はその量に相当する信号がコントローラーに送られ、コントローラーはバッテリーからスロットルが回っている分相当の電力を確保し、Escooter を動かします。
走行速度や斜度が高いほど Escooter の走行距離は短くなります。
シート下のブレーカーは高電流保護装置として機能する。48V DC と 12V DC 変圧器がボルテージを 12V に変圧する。すべての電球は 12V で稼働する。
この Escooter は燃焼機関、変速機、ベルト、チェーン、クラッチ、点火栓、キャブレターを持たずガソリンや潤滑材を使っていないためメンテナンスは基本的に不要である。独創的な「Direct Drive System」や再生式のブラスレスモーターブレーキングシステムによって Escooter 内の全摩擦が前車軸の 2 つのベアリング、そしてモーター内の 2 つのベアリングに集中するため、他社製品の電動スクーターよりメンテナンスが容易となりました。

一般的に機械メンテナンスでは下記を行うこと。
ブレーキの調整
ナットとボルトの確認
タイヤ空気圧

Escooter のホイール、コントロール部分、積荷部分などの全部分がしっかりと固定されていることを確認。
ホイールがまっすぐ回転し、車輪リムが損傷していないかを確認。（前輪ブレーキが作動するためには前輪が損傷を受けてないことが条件づけられる）。
メインスイッチを ON にする前にシート下のメインブレーカーが ON の状態になっているかを確認する。

衝突などの際
衝突や他の衝撃を与えることは電子機器や他パーツにストレスを与え、時期尚早に疲労させる可能性がある。このような状態のパーツはいきなり機能しなくなり、制御不能、怪我、死亡の原因ともなることもあります。
まずは自分の怪我などを確認した上で他者の確認をすること。
医療救助が必要な場合は要求すること。Escooter が損傷を受けた際にはマニュアルに明記されているチェックを行うこと。
損傷を修復できない場合や凹み、脱色した部分がある場合はヤディア販売店に問い合わせてください。

■ 日常点検項目

点検個所	点検内容
ブレーキ	きき具合
	ブレーキ液の量
タイヤ	空気圧
	亀裂、損傷、異物、異常摩耗
	溝の深さ（※）
モーター	異音
	低速、加速の状態
スロットルグリップ	動作確認
メーター	動作確認
メインスイッチ	動作確認
灯火装置、方向指示器、ブザー類	ヘッドライト、ウインカーランプ、ストップ / テールライト、ホーン
バックミラー	汚れ、範囲確認
ハンドル	動作確認、緩み、ガタ
前後ホイール軸	ナット緩み、特に後方車軸ナットは定期的に確認すること
リアスイングアーム	ナット緩み
メインスタンド、サイドスタンド	ボルト緩み
その他、運行において異常が認められた箇所	

※印の点検は、お車の走行距離・状態などから判断して適切な時期に行ってください。（長距離走行の前、洗車時、給油時など）

■ 簡単な整備

ここでは、通常行われる事が多い簡単な点検、整備の方法を説明します。

⚠ 警告

- 整備は､安全のためご自身の知識･技量の範囲内で行ってください｡難しいことはヤディア販売店にご相談ください。
- 平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立てて行いましょう。
- モーター回転中および停止後しばらくの間は、モーターが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負う恐れがあります。人が触れないよう十分注意して下さい。

⚠ 注意

- 整備はモーターを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- 適切な工具を使いましょう。
- スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。
- 油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務付けられています。廃液の処理はヤディア販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。液面がロアレベル以下の場合はブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。

指定ブレーキ液
DOT4 準拠のブレーキフルード

※ブレーキ液は安全のため 1 年毎の交換をおすすめします。

⚠ 警告

- ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。
  ヤディア販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

⚠ 注意

- リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないように注意して下さい。
- ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。
- ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したらすぐにふき取ってください。
- ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗とともに下がっていきます。

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約 1㎜になったら)、パッドを交換して下さい。必要な場合はサンドペーパーをかけること。ブレーキパッドが擦り切れている場合は交換すること。

⚠ 警告

ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーを正規のタッチになるまで数回ストロークしてください。

⚠ 注意

- ブレーキパッドは左右同時に交換して下さい。
- 新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけて下さい。
- ブレーキパッドの交換は、ヤディア販売店にご相談ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで既定の空気圧かを点検します。
規定値を外れている場合は、適正な空気圧にしてください。

タイヤ空気圧	
前	160kPa
後	210kPa

⚠ 警告

- 不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換して下さい。

■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれた時は、タイヤを交換して下さい。

⚠ 注意

- コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前 1.6㎜、後 1.6㎜以上が望ましいです。

■ 亀裂や損傷、異物の点検

タイヤ全体に亀裂や損傷箇所、異物が無いかを確認します。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定サイズのタイヤを使用して下さい。

タイヤサイズ	
前	110/70-12
後	120/70-12

⚠ 警告

- 指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。

⚠ 注意

- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

バッテリー

■バッテリーの点検

Escooter は電動バイク用のリチウムイオンバッテリー／密閉型の鉛バッテリーを使用しています。
点検、補給は必要ありません。完全に放電しないようにこまめに充電を行って下さい。

⚠ 警告

- リチウムイオンバッテリーは稀に初期不良を起こす場合があります。走行中いきなり停止してしまうケースもあり非常に危険です。走行距離 100㎞までは充分に気をつけて走行して下さい。不具合等が発見された場合には直ちに走行をやめてヤディア販売店までご連絡ください。
- バッテリーを取り扱う前に、バッテリーに貼付されている注意文をよく読んでください。
- バッテリーを分解しないで下さい。
- バッテリー電極、コード、ブレーキケーブルには鉛化合物や他の科学性物質が含まれています。取扱い後は手洗いを徹底してください。
- バッテリーは子供の手の届くところに置かないでください。
- バッテリーは使用者では修理不可能。電気機器や内部機器の修理、変更、調整を行わないこと。
- Escooter の過剰利用はバッテリー寿命を短縮してしまいます。
- バッテリーに異常が発見された場合はヤディア販売店に連絡すること（ヒビ、漏れたバッテリー、過度に熱くなるバッテリー、膨れ上がったバッテリー、その他）。

⚠ 注意

- ご使用後は毎回充電をしましょう。通常の継ぎ足し充電時間はリチウムイオンバッテリー３～６時間／鉛バッテリー６～８時間が目安です。
- リチウムイオンバッテリーは 10 時間以上／鉛バッテリーは 16 時間以上の充電を避けてください。バッテリーや充電器がオーバーヒートし、火災の原因となる場合があります。
- 表示灯が点灯しない場合は再度コンセントが差さっているかを確認し、コンセントが差さっているにも関わらず点灯しない場合や、10 時間／ 16 時間以上充電を行っているのにも関わらず緑色に点灯しない場合は充電器を外し、ヤディア販売店に相談して下さい。
- 正しく充電することによってバッテリーの寿命を最大限まで利用することができます。
- メーターのバッテリー残高が LOW の場合は走行を避けること。
- バッテリーは Escooter 内に設置したまま充電されなければいけない。
- Escooter のバッテリーの充電を怠るとバッテリー消耗につながる。
- バッテリーがフル放電しないように注意すること。
- 計器上のバッテリー残高がゼロになる前には必ずバッテリーを充電すること。バッテリーのフル放電はバッテリー寿命を短縮、バッテリーを損傷、または充電時のバッテリーと充電器のオーバーヒートや火災原因につながる場合もある。
- 充電器は、バッテリーへの損傷を避けるために付属品の充電器もしくはヤディア販売店に推奨されたもののみ使用すること。

■ 定期点検・整備記録簿

定期点検整備項目		6ヶ月 実施日　年　月　日 点検者	12ヶ月 実施日　年　月　日 点検者	メモ
タイヤ	タイヤの亀裂・損傷			
	タイヤの残溝・異常摩耗			
	空気バルブの損傷			
	空気圧の適正			
ブレーキ	ブレーキランプの点灯			
	ブレーキのきき具合			
	ブレーキパッドの摩耗・ブレーキフルードの量			
ホーン	作動確認			
	配線溶接点、絶縁			
バックミラー	角度、範囲、ねじ締め付け			
ヘッドライト、ウインカーランプ、テールライト	照射位置、角度、配線と絶縁			
メーター	メーター表示、配線			
ボルト、ナット類	締め付け確認			
スロットルコントロール	レバーの作動、戻り具合			
コントローラー	コネクター接続部の緩み、損傷			
	不足電圧、過電圧保護			
モーター	端蓋、ベアリング、ホール、信号線、モーター配線、モーターケース絶縁			
メイン配線束	損傷、接続部			

良好	✓	交換	×	締付	T	修理	△	分解	○	調整	A	清掃	C	給油	L

定期点検整備項目		6ヶ月 実施日　年　月　日 点検者	12ヶ月 実施日　年　月　日 点検者	メモ
前後ホイール	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
ハンドル	ハンドルの操作具合・緩み・がた			
	左右の操舵角度			
	ステアリングシャフトの取付具合損傷			
	ステアリングシャフトの軸受部のがた、ストッパーの損傷、サビ			
フレーム、リヤスイングアーム	各溶接点、ナット締め付け			
フロントフォーク	ボルト、ナット類、ベアリング			
サスペンション	サスペンションの作動具合			
	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
バッテリー	ターミナルの締め付け、腐食			
	コネクター接続部のガタ・損傷			
	充電機能			
充電器	コネクター接続部のガタ・損傷			
	ランプの点灯			
その他 （必要な箇所が認められた場合に記入）				

6 困ったときは

問題	状態	チェック	解決策
メインスイッチを ON にしても反応しない	ディスプレイが何も点灯しない	ブレーカーが ON になっているか確認	ブレーカーレバーを ON にする
		電線とバッテリー残量を確認	電線をつなぐ
		ヒューズが切れているか確認	ヒューズを交換する
		電源のプラグとバッテリーのコンセント接触不良	接点部を検査し、緩みあるかどうか？
	電源表示機が ON になる	バッテリー残量とモーター接続を確認	バッテリー接点部を清掃、接続する
			モーターの電線をシート下コントローラーに接続
	電源表示機が ON になり、ブレーキライトが ON になる	ブレーキを確認	ブレーキを緩める。不具合がある場合はヤディア販売店にお問い合わせください
		バッテリーボルテージが 48 ボルト以下	バッテリーを充電、または取り替える ヤディア販売店にお問い合わせください
	スロットルを回してもモーターが回らない	バッテリーの電圧不足	充電する
		ブレーキ半握りため、電力供給遮断スイッチＯＮになっている	起動するとき右手のブレーキレバーを握らないこと
		ブレーカースイッチがＯＮになってない	ブレーカースイッチをＯＮにしてください
バッテリー	バッテリーが充電できない	充電器の接続コード、もしくはプラグが外れている	確実に接続しているかどうかを検査する。または、一度充電器の配線を抜いて、再度接続する
スロットルが反応しない ON にならない 加速せずにスクーターが動く	スロットルが停止位置に止まらない	グリップが損傷していないか確認する	ねじ回しを使ってハンドルのゴム部分とカバーの間の隙間を調整
		スロットルのスプリングを確認する	スロットルのスプリングの位置を調整。ヤディア販売店にお問い合わせください
走行距離が短い	充電表示灯が OFF	充電器と充電器の接続に問題	充電器プラグの位置を確認
		充電ができない	充電器を交換
	バッテリーが充電しない	バッテリー間の接続が悪い	バッテリー間の接続を確認。または、一度充電器の配線を抜いて、再度接続する
		バッテリーセルが消耗	バッテリーセルの交換
スピードが出ない	タイヤの空気圧不足		タイヤ空気圧を調整する
	頻繁にブレーキを使用、積載重量が多い		よい運転習慣を身に着けましょう
	バッテリーの寿命である		バッテリーを交換しましょう
	外気の温度が低い、バッテリー容量が低くなる		これはバッテリーの特性によるものであることです

7 サービスデータ

■ 主要諸元

項目		EM67-1000	EM67-1000L
モーター定格出力		1000W （DC brushless motor）	1000W （DC brushless motor）
バッテリー		48V40Ah Lead-Acid battery （鉛シールドタイプ）	48V40Ah Lithium battery （リチウムイオンバッテリー）
充電可能回数		200 ～ 400 回	1000 回
充電時間		6 ～ 8 時間	3 ～ 6 時間
満充電時走行可能距離		55km （40km /h 平坦路）	58km （40km /h 平坦路）
充電電圧		110V/220V 50-60Hz	110V/220V 50-60Hz
ブレーキ	前	ディスク	ディスク
	後	ディスク	ディスク
タイヤサイズ	前	110/70-12 （チューブレス）	110/70-12 （チューブレス）
	後	120/70-12 （チューブレス）	120/70-12 （チューブレス）
最大登坂角度		14 度	15 度
最高速度		53km /h （パワースイッチ作動時）	56km /h （パワースイッチ作動時）
車両重量（kg）		136	96
全長×全幅×全高（mm）		1850 × 660 × 1170	1850 × 660 × 1170
ホイールベース（mm）		1340	1340
シート高（mm）		800	800
乗車定員		2 人	2 人

ランプ	ヘッドランプ	12V 35/35W （HS1 タイプ）
	ストップ／テール	12V 21/5W （口金ダブルタイプ）
	ターンシグナル	12V 10W （口金シングルタイプ）

充電器	EM67-1000	EM67-1000L
種類	インテリジェントバッテリーチャージャー Type: TK4840	リチウムイオンバッテリーチャージャー MODEL: HP8204L4
インプット	AC110V, 50/60Hz	115/230VAC 60/50Hz 2.5/1.5A
アウトプット	48V/4.5A	48VDC/2(3)A
ヒューズ	——	10A　125V/250V

安全運転５原則

1．安全速度を守る。
2．カーブの手前ではスピードを落とす。
3．交差点では必ず安全を確かめる。
4．一時停止で横断歩行者の安全を守る。
5．飲酒運転・運転中の携帯電話の使用は絶対にしない。

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいて下さい。

車　両　名	EM67　ー
車　体　番　号	
モ ー タ ー 番 号	
カ　ラ　ー	
ご　購　入　日	年　月　日
ご　購　入　店	

Yadea Japan
株式会社クリエイティブエンジン
〒130-0002　東京都墨田区業平 1-5-13